



天竜川ライン下り

(FindTravel 天竜峡観光より)



天竜川

(溪一郎の鮎河川案内より)



## あの日のあの川 リレー日記 ～第16話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第16話主人公 渡邊麻里乃

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：茨城県桜川)

### 「幼き日の川の思い出」

いつのこと？：小学生時代

どこの川？：天竜川，矢作川

「あの日のあの川」

ここでは皆、幼少期や青春時代の川での思い出を書き連ねているようだが、私は中学生になった頃からどんどんインドア派になっていったので、青春時代の川での記憶というのはないに等しい。なので、最近思い出することなどもっぱらなくなった中学生以前の記憶を引っ張りだしてみようと思う。

私は5人兄弟の4番目で、兄が二人、姉が一人、弟が一人いる。私たち兄妹は、小学生時代、春休みや夏休みなどの長期休暇に入るとそのほとんどを祖父母の家で過ごしていた。

母の実家は長野県飯田市の山の上であり、周りを自然に囲まれた空気の美味しい場所である。母は4人姉弟の長女で私には従兄弟が9人いる。私たち兄妹を合わせると祖父母には14人の孫がいることになり、お盆やお正月などいつもとても賑やかだった。祖父母は毎年私たちを色々なところへ連れて行ってくれた。

長野県では蜂の子の佃煮が有名なのだが、それを家で作るために、蜂の子を取ってくるというのも毎夏の恒例行事だった。祖父の運転するバンに乗り込み、わくわくしながら山の中に入っていく。いくつかの木に蜜を塗り、ミツバチが来るのを待つ。そして蜜に誘われてやってきたミツバチに目印となる綿を付けて、巣に帰っていくのを追いかけるのだ。もちろんどこに巣があるかなど検討もつかないので、ただがむしゃらに祖父と従兄弟たちと一匹のミツバチを追いかけて、山の中を走り回ってようやく巣に辿り着くのである。蜂採りは毎年の

ように行っていたが、採ってきた蜂の子の佃煮は今まで一度も食べたことがない。(見た目が結構気持ち悪いので無理だった…)

他にも、祖父の家から少し上がったところにある公園や学校の校庭みたいなところでよく遊んでいた。夏は虫捕りをしたり冬はかまくらを作ったり、雪が積もっている時はみんなでソリに乗って遊んだりもした。

とまあ、ここまで全然川とは関係のない話をしてしまったが、もちろん祖父母は山以外のところにも連れていってくれた。その一つが天竜川である。

ある夏、祖父母、従兄弟たち、両親たち、親戚みんなで天竜川の名もない小さな支流に遊びに行った。その日はとても天気が良く水面がきらきらと光っていたのを覚えている。大きな岩の上から飛び込んだり、泳ぎまわったりとても楽しかった。ひとしきり遊んだ後、川原でバーベキューをしたのだが川で存分に遊んだ後のお肉は格別だった。

また、天竜川ライン下りにも行った。舟に乗って天竜川沿いの壮大な自然を眺めながら水しぶきを浴び、天竜川の、自然の持つ迫りに圧倒された。天竜川ライン下りは本当に素晴らしく、もう一度行ってみたいと思っており、ここ数年行く機会を伺っている状態だ。

一方、父の実家は愛知県岡崎市にあり、矢作川に歩いて行ける場所にある。母曰く、矢作川にも毎年遊びに行っていたらしい。(小さい頃のことなのであまり覚えていない…) 兄妹みんなで浅瀬で泳いだり、砂のお城を作ったり、日が暮れるまで遊んでいた。また、最近になって矢作川沿いを母や姉と一緒にランニングし、小さい頃とは違った気持ちで矢作川を楽しむことができた。

今回、こうして川の思い出について書く機会を与えてもらい思い返してみると、意外に川の思い出があることが分かった。せっかく河川の研究室に入ったので、大人になってからの川の思い出も、どんどん作っていきたいと思う。そして自分が住んでいる場所の身近な川についてもっと詳しく知りたいと感じた。



天竜川



矢作川

(次は肥田野美琴さんにバトンを託します)